

泥酔して寝ちゃった女の子の身体を
寝ている間に俺好みに開発するお話



サークルの飲み会、女性の先輩方から誘われた事自体はかなり嬉しい
・・・だけど俺が呼ばれた理由はイケメンだからでもモテモテだからでもなく
単純に移動に必要な車（と運転手の俺）が必要だっただけみたい、呑めないじゃん
何とも複雑な気持ちだ



でも良い事もある、気になっていた先輩と同じ席になれた
サークルもこの人目当てで入ったんだよなあ
何とかお近づきになれないかな

「○○君呑んでる？」

「はっ、はい！。。。あっ、いえっ、俺車出したので呑んでないっすね」

「ああごめんそうなんだ、ごめんね。。。そういえば話すのはじめてだね、えへへ」

「そうですね、はは」

ちよつと酔ってる？

赤くなった先輩もかわいい。。。やっぱ今日は来てよかったかも



数時間後

先輩が寝ちやうまでには楽しかったんだけどなあ・・・
はあ、このあとどうしよ



「二次会行こ〜」

「つぎどこいく?カラオケ?」

みんな元気だな

「ごめんね〇〇君、悪いんだけどその子家に送ってやってきてくれない?」

す〜

「・・・え!？」

「ほんと申し訳ない」

「いえいえそのための車ですから!任せてください!」

「あ、あらそう?・・・じゃあ私ら二次会行くから頼むね」

「はい!行ってらっしゃいませ!」

・・・やった二人きりだあああああ!

運転して数十分後

起きてくれれば話もできるけど寝てるなあ

先輩起きてます？ってさっきから何回かしてるけど返事は無い



暇だな。。。それにしてもデカイな、揺れる揺れる

ああいかにバックミラーばかり見てると事故る

「んっ……ふう……」

寝息もかわいいなあ、でもあまりに無防備すぎる
もし知らない男の前でそんな事してたらイタズラされちゃうんじゃないか？

……。イタズラしても起きないかな？

だって今日呑み会なのに俺はただの運転手役で呑んでないし
これくらい良い事あってもバチあたらないでしょ

「起きてないですよ？脱がしますねー」



ぺちぺち

軽く頬を触るけどちゃんと寝てるな

〃

すうー

起きないで下せらよお。。。。



憧れの先輩の乳。。。生きてて良かった。。。
服着ててもデカいとは思ってたけど、想像してたよりデカい
良いもん見れたからそろそろ服を。。。

たっ
びん
っ

いやっ！ここで我慢とかないな！よーし





ク
ク
ク
ク
ク

ク
ク
ク
ク

ん
ん
ん

ん
ん
ん



汗かいてぬるぬるじゃないっすか
柔らかくてあつたけえ。。。。

すん。。。。

ん

ん

キュッ。。。。





チユホッ

チユホッ

〰

〰

はあ。。はあ。。気持ちよかったあ。。。。まだ寝てるな

すうー！。。。。

すうー！。。。。

ドロドロ。。。。

いかに余計興奮してきた
ここまでできたら最後までやらせてもらおう

「よっこいしよ、先輩温かいっすねえ」

グイッ

むっちりしてて程よく太めだから抱き心地良いなあ
やっぱ女の子はこんくらいの方が良い
じゃあ挿れますね、起きちゃだめですよ



(寝息の間に小さく喘いでる、イかせたい。。。)



おっ♡♡♡♡♡
んっ♡♡♡

んっ♡♡♡



...오호호호호호...
~~~~~~  
호호호호호호

호호호호호호  
~~~~~~  
호호호호호호

호호호호호호

。。。ふう、
すげえ量出た

~~~~~♡

ハク~~~~~

~~~~~  
~~~~~

「あらら、寝ながらおもらししてるじゃないっすか  
よっほど気持ちよかったんですね」



尻も柔らかいなあ。。。  
この柔らかさそうなアナルにもぶちこみたい

あっ、そういうえば良いのあったな

ムニッ

ん。。。  
モニョ

家帰ってから1人で呑もうと思ってたヤツが。。。あった





直腸だからかなり効くはず

ト  
ッ

ト  
ッ  
ト  
ッ

ト  
ッ

ト  
ッ

良い感じでほぐれてきたな  
じゃあぶちこみますね





うんうん。。。熱くてとろけるわ。。。  
動くぞ。。。。

グググ

ズ  
ズ  
ザ  
!

グ  
グ  
グ





。。。ふう、尻穴がこんな良いと思わなかった  
病みつきになりそう

ゴッポッ

ミロクッ

おめ〜。。。

ほちん。。。



「はっ！ね、ねちゃった・・・ここどこ？」

「あっ、おはようございます。ちようど着きましたよ」

M

「・・・〇〇君？」

「はい、寝ちゃったので先輩方に家まで送れと頼まれました  
みんなは二次会行きました」



「あれ？ そうなの？ ええと、 ごめんちょっと頭が……」

「先輩大丈夫ですか？」

「う、うん、あー……ええと、 ありがとうね、 このお礼は必ず何かの形で……」

「じゃあ今度の休日に呑みませんか？ 今度は2人で」

「ふえ？ それでいいの？ もちろんいいよ」

「楽しみにしてますね、 ではおやすみなさい」

「うん、 おやすみーありがとね」

。。。。

ばれてないな、 よかった

しかもお礼に呑みに誘えたし、 ラッキーー

休日、約束どおり二人で居酒屋へ

「あのさ・・・いざ二人で飲むってなると緊張するね」

「そうですか？俺は平気ですけど（あんな事までしちゃったし）」

「そ、そうかな？・・・あはは」



そう言っていた先輩も数分もすると・・・  
『それでねえ〜・・・まちがってちがうやつ注文しちゃてえ・・・えへへ』  
「うんうん」

この人ホントお酒弱いな



更に数十分もすると

「その時に初めて、あれ？先輩？」

う  
すう  
……

「……寝ましたかね、じゃあお会計してきますね」

計画通り



居酒屋からタクシーでラブホテルに移動  
先輩はあいかわらず寝ている  
身体も洗ってすでに準備は済ませた

すっ~~~~



今日は俺も呑んじゃったから怖いもんなんでないぜ、へへへ







。。。まだ足りない  
ちよつと失礼しますよ

チュッ







はあ・・・はあ・・・ふう、少し落ち着いた  
今度は俺が気持ちよくさせてあげますね



疲れたので一休みして  
先輩が起きるまで舐める事にした

チユッチユッ

グハッ

んんん

あっ...

「.....」





「先輩おはようございます」



「あ、あれ……（なんかきもちいい……なんで……？）」

「じゃあ次はこれを挿れるけど良いですよね？この間もしたし」



「ほえ？・・・うん・・・え？・・・（このあいだ・・・？）」

「ひうっ……」

「あらら、まだ狭いなあ、もっとゆっくりしましょうか」

ニニニ……

あっ  
あっ

あっ  
あっ  
あっ

「ちゃんと奥も良くなるまでじっくり慣らしてあげますからね」



一時間後

「んっ。。。ふうっ。。。ああ。。。やめへえ。。。ひうっ。。。」  
「またまた、そんな事いって気持ちいいんでしょう？  
締め付けてくるので感じてるのばれればれですよ」

「俺のちんぽの形分かります？（グリグリ）」

「そんなこと。。。いわないれえ。。。」

「じゃあそろそろ奥までねじこみますね」

「ふ、しまはっ。。。っー」













「ふう、こんな出ちゃいましたよ、先輩は気持ち良かった？」  
「はあ。。。はあ。。。んう？。。。ああ。。。うん。。。」  
（。。。あれ？。。。なにをしてたんだっけ。。。）

「今度は先輩が俺を気持ちよくしてくれませんか？  
自分で挿れて動いて下さる」

「ふえ？。。ああ・うん。。。」

ほー。。。



(おっきい。。。  
ちんちんってこんなかたくおっきくなるんだ。。。)

♡。。。♡

(ああああ。。。挿っちゃう。。。)





「上手いですよ、奥に当たってるのわかります？」

「んっ。。わかつ。。るよお。。あんっ。。」

(おなかの。。なかが。。ぽかぽかしてきた。。)

あっ♡

あっ♡  
あっ♡

ッ  
ダイオ  
ッ

ッ  
ゴッ

ッ  
コッ

ッ  
ダイ  
ッ

「あっ。。あっ。。もう。。」

「イキそうなんすか？じゃあ俺も手伝ってあげますよ」

「ひうっ！。。急につきあげないでえっ。。」







「じゃあ今度はまた俺が・・・あら、また寝ちゃったのか」



「起きないと好き勝手犯しますよ？」

。。。起きないな、それなら

「生で挿れちゃえ」









「くはあ・・・すげえ出た」  
「・・・あえ？」

「あつ、おはようございます先輩」

グンッ  
グンッ

ゴッ  
ゴッ  
ゴッ

「え・・・えっ・・・これって・・・」  
「すいません途中で出しちゃいました」



「でも一回出しちゃったらもう一回も三回も変わらないですよね？」  
「ひあつ！……いまっごらちやあめえ……」



おねえ

「おねがいします、もう一回だけ、ね？」

「ふっ……ふっ……ふっ……なんでもいいからっごかないれえ……」

「わーら」

(汗で良くなって言ったけど。。。どっしょ。。。)

「あれ？もしかして酔いさめてきました？」

「うん。。。まだちょっとぼーっとしてるけど抜けてきたね。。。」



「そう思ってお酒もってきたんすよ、遠慮しないで下さい」

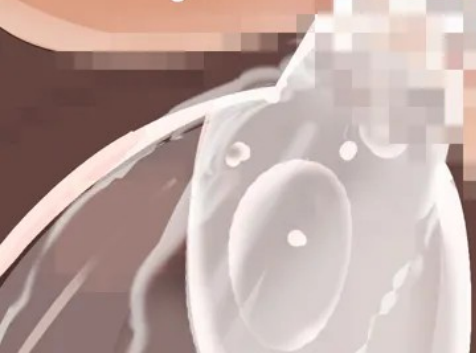
「ひびく!?」

ムーン

ムーン

コホッ

コホッ





「やっぱ下の口からの方が吸収早いみたいっすね  
そいじゃ生でいきますよー」



ニギ

ニギ

X=X=X...

ニギ



タパ

タパ

ゴッ

ゴッ

ズッ

ズッ

ホッ



(.....OOO.....>.....<.....)

ド  
ユ  
.....

ゴ  
ポ  
ッ

ム

ム

ゴ  
ポ  
ッ

ド  
ム  
ッ  
ド  
ム  
ッ  
.....



数時間後

(何回も中に出されちゃった。。。。)

(おなかの中が精液でたぷんたぷんだよ。。。。  
だいじよぶかなあ。。。。いやきつともう。。。。)





「ううう。。。この体勢だと。。。深いよお。。。っー!」

×ニ×ニ。。。

あーっ!

あーっ。。。っ

っ。。。っ

っ。。。っ



んっ...

んっ...

グッ  
チュッ

グッ  
チュッ

グッ  
チュッ

グッ  
チュッ

（ああ。。。また中に。。。）

ふふっ

ドクン

ドクン

ドクン  
ドクン  
ドクン

ドクン  
ドクン  
ドクン



「ひうっ!!。。。だしながらうごかないで!。。。」

うあッ  
あまッ

あッ  
あまッ

タッ  
パッ

タッ  
パッ

ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ

「あッ。。。あああ。。。これらじょう出されたら。。。ぜったい。。。」





(逃げないようにガツチリ掴んで……確実に孕ませる気なんだあ……)

(……好き放題されちゃった)







「はあ……はあ……今度は……いつ会えますか」

「ふう……。ふう……。ん？呑み会？それともえっち？」

「やだなあ、もちろん呑み会ですよ」

「だって○○くんえっちだから、お酒は口実なのかなと」

「そ、そんなこと……。先輩だけっすよ……」

「あははごめんごめん、じゃあねえ」

「……次の休みに今度は私の部屋でしよっか、呑み会」

おしま































































































































































